

2024 年度「ひろしまコミュニティ基金」応募用紙_様式 2

団体名:ふくやま科学未来キッズ 一押しの活動:「CoderDojo 福山大門」

【共感！】活動目的:

- ① まちの未来のため。次世代の子どもたちへの教育。地域の魅力づくり。技術力向上。
- ② 科学や技術が好きな児童・生徒の居場所づくり。

【共感！】活動を始めたきっかけ:

- ① 日本の中核市で科学館的施設がないのは福山市のみ。子どもたちの「自分たちのまちに科学館がほしい！」という願いをかなえるために、親子のグループで「福山市子ども未来館構想」を応援している。子育て環境として選ばれる福山市を目指して。
- ② 地域のスポーツクラブはいろいろあるが、コンピュータークラブはなぜないの？学校やスポーツクラブで無理して周りに合わせ、クタクタになってしまう子どもがたくさんいる。自分の好きなことが一番力を伸ばせる。保護者も似たようなタイプの子どもたちがいると相談しやすい。

【広がり！】知ってほしい取り組み:

CoderDojo とはアイルランド発祥のオープンなデジタル・コミュニティ。憲章のもと、7 歳～17 歳を対象にして、無償で、公共や企業の施設を利用して開催。コミュニティはチャンピオンと呼ばれる管理者やメンターによって個性がいろいろ。参加希望者は受け入れる。

CoderDojo 福山大門は「将来福山市に子ども未来館ができた時に、建物が建つだけではダメで、コミュニティが育っていないとうまく活用していけない」という考えから、市民活動としてボランティアで、無償で行っている。持続可能なコミュニティ運営のため、対面は月 1 回 2 時間、無理のない範囲で開催。(管理者はフルタイム勤務の会社員の母親)

学校での適応が難しい児童生徒もいる中、IT を活用することで能力を伸ばせる子どもたちもいる。保護者の相談や情報交換の場にもなる。

【成果！】活動実績:

地域の子どもたちが自治体の交流館に集まって、教育用ソフトウェアを使い、自分たちのまちをモデルにしたデジタル作品を作る場「CoderDojo」を提供するべく、活動した。毎回親子約 20 人、のべ 300 人が参加し、コミュニケーションを取る機会となった。

- ・ 対面 Dojo 開催 14 回(1/20、2/25、3/24、4/28、5/4、26、6/23、7/14、15、8/25、9/29、10/27、11/24、12/22)
- ・ リモート Dojo 開催 21 回(オンラインで会議をしながら、いっしょに作品づくり)
- ・ 子どもたちのチームビルディングや教育効果を高めるため、約 12 人のチームで「Minecraft カップ」のコンテストに 2 回参加。2 月の全国大会で「建築賞」、11 月の中国ブロック地区大会で「最優秀賞」を受賞した。
- ・ 12 月に福山市役所を訪問し、2025 年 5 月に開催される世界バラ会議福山大会の機運を高めた。
- ・ 2 月に「子どもが科学に親しむ機会を創る会」(子ども未来館を応援する市民活動の会)の総会に出席。子ども未来館に関わる提言や意見交換、展示を行った。
- ・ 9 月に岡山市で開かれた「DojoCon」という CoderDojo のイベントにブース出展で作品の展示を行い、コミュニティ活動の成果をアピールし、CoderDojo 同士の交流にもつながった。

【成果！】教育的効果:

子どもたちが教え合い、自分たちのまちをモデルにした作品を協力して製作することを通じ技術と心を育てた。作品づくりで子どもたちの意欲やコミュニケーション量の増加、大会参加でプレゼンテーション能力やチームワークの向上が見られ、メンバーは大きく成長した。

2024 年度「ひろしまコミュニティ基金」応募用紙_様式 2

◆新聞記事(中国新聞朝刊 2025/1/16)

◆2 月全国大会「建築賞」



◆11 月地方大会「最優秀賞」

◆活動の様子



◆作品の画像

